

2024 年度神戸市外国人市民会議 議事要旨

地域協働局地域協働課

日時	2024 年 9 月 19 日 (木) 13:00 ~ 15:00	場所	神戸市役所 1 号館 24 階 1247 会議室
出席者	兵庫県立大学環境人間学部教授 乾美紀 在日本大韓国民団兵庫県地方本部総務部長 李宝彰 兵庫朝鮮学園理事長 金錫孝 神戸華僑総会事務局 王政夫 一般財団法人神戸万国医療財団理事長 F.E. レオンハート 在日本印度商業会議所 ニシャット・トラバリー 神戸大学人文学研究科後期博士課程院 朱信樺 〔敬称略〕		
	地域協働局地域協働課 (事務局)		
議事	(1) 神戸市に引っ越ししてきた方へのウェルカムちらし (2) 外国人住民を対象とした WEB アンケート (3) 神戸市の現状と外国人市民会議のふりかえり (4) その他		

1. 開会

2. 議事

- 事務局より所管替えの説明
- 局長あいさつ
- 会議の進め方についての説明

(1) 神戸市に引っ越ししてきた方へのウェルカムちらし

(事務局より資料に沿って説明。グループに分かれて議論し、意見をまとめて発表。)

<両グループ共通>

- ・そもそも「多言語」という表記自体が分からない方がいる。
- ・「language」という表記だけで多言語版ページに飛べることは伝わらない。手渡しするときに補足するなど、工夫した方が良い。
- ・労働目的で日本に来る方が多いにも関わらず、労働関係の相談場所に関する記載がない。
- ・リンクで最初に飛ぶところが日本語表記になっているため、多言語対応しているページまで容易にたどり着くことができない。

<グループ A>

- ・神戸市も兵庫県も多言語でいろんな媒体を作ってくれているが、自身がいた国ではこういうものはなかったからありがたいと思っている。
- ・過去に、行政からの郵送物で封筒だけが英語対応していて、中身の書類が全部日本語ということもあった。
- ・繁体字版も対応してはいるものの、ニュアンスが中国本土の表現になっている。
- ・日本人側が困っているだろうと思っていることと当事者が実際に困っていることとは違う。
- ・本当に困っている人たちは相談窓口にさえたどり着けていない。そういう人たちの優先順位を上げてリーチしていくべきではないか。
- ・困ったことはないけれど、病院でデリカシーのない医師に診察されたことはある。
- ・ゴミの捨てられる日が少ないのが困った (自国では週 5 くらいで捨てられる)。また、自治体によってゴミ捨てルールが違うことにも困った。

<グループB>

- ・防災ネットは、アプリの案内が結局二次元コードになっており、ダウンロード画面までアクセスできない。ダウンロード画面に直接飛ぶようにした方が良いのではないか。
- ・防災ネットの対応言語が古い。増加している外国人に対応した言語に見直した方が良いのではないか。インド人も増えており、英語ができない人もいますので、できればヒンディー語も対応した方が良い。
- ・医療が一番大切なことであるので、多言語対応されているのは素晴らしい。
- ・KICCのワンストップ相談窓口は、すぐに問い合わせできるように、電話番号を書いた方が良い。
- ・自転車だけでなく、電動キックボードを利用している人も増えている。

(2) 外国人住民を対象としたWEBアンケート

(事務局より資料に沿って説明。グループに分かれて議論し、意見をまとめて発表。)

<両グループ共通>

- ・孤立していないかが気になる。困った時の相談先や情報入手方法は聞いてもらいたい。コミュニティリーダーはいるのか。レストラン等の集まる場所があるのかを聞いてほしい。
- ・インドアメーカー等、様々な国の人が集まるイベントでアンケートの周知を行うとか、SNS（インスタ等）のような双方向コミュニケーションツールの活用をしても良いのではないか。

<グループA>

- ・回答してくれる人をランダムにするのではなく、特定の困っているコミュニティを対象として調査する方が良いと思う。
- ・どんな情報がほしいのかを聞いてみても良いのではないか。
- ・家を探したりするときも圧倒的に情報が少ないと感じる。
- ・何に困っているのか聞いたら種々様々、個人のパーソナルな色々な意見が寄せられると思う。

<グループB>

- ・住居探しや職場等で差別を受けたことがあるかは聞いてみてはどうか。
- ・神戸市が目指す共生社会が何かという点が重要で、そのために何が必要かということだと思う。
- ・回答がどう自身に還元されるのかが大切なので、それが分かるように案内すべき。
- ・質問内容・趣旨によっては、コミュニティを活用することも可能である

(3) 神戸市の現状と外国人市民会議のふりかえり

(事務局より資料に沿って説明。グループに分かれて議論し、意見をまとめて発表。)

<両グループ共通>

- ・この会議で議論したことを神戸市の施策に反映してほしい。どこまで施策に取り入れられていくのかを知りたい。
- ・この会議のメンバーでは困っている人はほとんどいないのではないか。新しいメンバーに変えた方がいいように思う。
- ・オールドカマーからニューカマーに良い形で知識を引き継いでいくような議論が可能なシステムができると良い。また、両者の壁を取り払うための対話の場があっても良いと思う。
- ・ここに参加できないような、取り残された人たちへの対応が気がかりである。近年増えているネパール人、バングラデシュ人は困りごとだらけだと思う。

<グループA>

- ・自身が若い時に比べると神戸市の魅力がなくなってしまったのではと感じる。
- ・市議員も会議の場に入ってもらえるべきではないか。

<グループB>

- ・特別永住者も1/4を占めているのに、その人たちへの施策が完全に抜け落ちているように感じる。現在の特別永住者の故郷は母国ではなく、もはや神戸。その子たちが共生に貢献できることは多いと思っている。古くから住んでいる人たちも住みやすくするための議論ももっとできると良い。

- ・ どうやって児童を学校で受入れていくかの議論はあっても、外国人の子どもたちの教育の問題も議論されたことがない。所管局が変わったことで、そういったアクションが出てくると良い。
- ・ 近年の市民会議は意見を出す場ではなく、市施策の説明の場となっていた。フレンドリーに、自然な感じで話せる今日のような環境はとても良いと思う。
- ・ 委員に対するアンケートもあってよいのではないか。
- ・ 国ごとに異なる課題もあるかもしれないので、国別で会議を開催してみても良いかもしれない。

以上